

介護老人保健施設しおさい 通所リハビリテーション部門 鈴木 孝千代

功 績	コロナ禍でも安心してご利用が可能となるように感染予防を徹底しながらも、予算を必達するといった、強い気持ちで諦めることなく挑み続けることにより予算を達成した功績。
推 薦 者	算用子 美登里
推 薦 理 由	予算を達成するといった決して諦めることない強い意志、チャレンジ精神は周りの職員を感化させ、通所リハビリテーション職員のやりがいに繋がり、組織管理を含め施設運営にも貢献していること。また、現在のONE TEAMとなるチームワーク作りを評価し、理事長賞候補に推薦させていただきます。

内 容

鈴木は前任リーダーが退職したことにより、今年度より通所リハビリテーションの新リーダーを担っています。今年度4月からのコロナウイルス感染症の影響は著しく、修正予算であった26.0名/日ですら達成できていない状況でした。鈴木は何とか稼働を上げられないかと考え、コロナ禍でも安心してご利用が可能となるように、感染予防対策委員会を通し保健所へ相談するなど、飛沫感染予防の重要性、職員だけでなく双方のマスク着用についてご指導いただき、安全な利用について準備を始めました。当時マスクは地域性も関係し、とても手に入りにくい状況であり、老々介護や独居世帯では入手することが難しく着用率も低い状況でした。そこで、安心してサービス提供に繋がられるよう、イベント内で全利用者さんを対象に、洗うことの出来るマスクを確保し、特に施設内での着用率を向上していきました。

また、様々な情報が飛び交う中、委員会や保健所にて確認を行った情報より利用者さん・ご家族にも感染予防対策の説明をし、安全性を理解していただけるよう、地域のケアマネジャーにも協力を仰ぐことにより、少しずつですが利用者さんの再利用や新規獲得に繋がっていきました。

また、当時他施設をご利用されていた利用者さんが、その施設を利用できないことになった案件を一早く体調観察票の導入や感染指導を実施していくことで、受け入れを可能とし、現在しおさいを気に入っていただき、定期利用となっております。

しかし、それでも目標には届かず再度、予算未達成となっている要因が何なのか部門一丸となり見直すこととしました。まずは用事や体調不良のキャンセルによる別日振り替えを強化するも、多少の増加が見られたが予算達成までは届きませんでした。そこで更なるイベント回数増加や内容の質を上げ、作成した作品を玄関前に飾ることで参加されなかった利用者さんやご家族、ケアマネジャーにアピールしていきました。また、外部への広報活動にも力を入れ、新たに「なごみ新聞」といった通所リハビリテーションの内容や相談方法を記載したツールを作成し、地域にも周知できる仕組みを構築しました。

当初置かせてもらう場所は近くのスーパーやドラッグストアを考えていましたが、鈴木は病院や診療所にこ

そご利用が必要な方が多いはずと営業をかけ、初めは聞いてもくれなかった病院など、幾つかが張り出しを承諾くださるところが出てきました。

様々なチャレンジ、決して諦めない意志を持ち、行動していくことでキャンセル減少やイベント利用増し向上に繋がっていき、すべての歯車が合致した結果、今年度初めて目標であった29.0名/日を超える29.62名/日を達成することが出来ました。また、利用者さんやご家族、ケアマネジャーの要望に耳を傾け、元々29日までだった営業を正月の間、お風呂に入れなくて困る利用者さんやリハビリや身体を動かす機会が減り、身体機能低下を懸念し、周りの協力を得ながら30日までサービス提供を実施。更なる売上向上や利用者さん・ご家族の満足に貢献しています。

鈴木は今年度、通所リハビリテーションの新リーダーとして間もなく、予算や新型コロナウイルス感染症、前任者の退職といった様々なことで不安などあったかと思います。そんな中でも、鈴木のかつらい時でこそ笑顔を見せる行動や諦めない意志は周りの職員の模範となり、利用者さん、クライアントからは信頼される存在となっています。今ではしおさいの通所リハビリテーションの顔となり、地域からの相談対応が地域貢献にも繋がっております。